

- 平成28年10月24日(月)、防衛省は、木更津駐屯地において、米海兵隊MV-22オスプレイ及び陸上自衛隊CH-47JAをそれぞれ飛行させ騒音を測定
- 各騒音の測定値を比較した結果、次の点を確認(細部は別紙のとおり)

【場周経路の飛行】

- いずれの測定地点においても、MV-22オスプレイと、CH-47JAは、同程度

【駐屯地内でのホバリング】

- 地域住民の生活区域に近い駐屯地外の測定地点(木更津下水処理場及び航空自衛隊木更津分屯基地)においては、MV-22オスプレイとCH-47JAのいずれも周囲の生活音に包含されており、区別ができない程度であること
- 一方で、ホバリングを実施している場所に近い駐屯地内の測定地点においては、MV-22オスプレイが、CH-47JAを上回っていること

- 防衛省としては、日米オスプレイの共通整備基盤について、引き続き、木更津市等に丁寧に説明を行いつつ、米国政府等との所要の調整を進めていく考え

※今回の騒音比較では、木更津駐屯地、木更津下水処理場及び航空自衛隊木更津分屯基地の3ヶ所で測定を実施。

場周経路を飛行した際の騒音比較の結果(騒音の最大値)

場周経路飛行時の騒音比較



(国土地理院HPを加工)

・ オスプレイが飛行することとなる場周経路
・ 高度900ft(約270m)

・ 現在CH-47JAが飛行している場周経路
・ 高度800ft(約240m)

【測定地点①】 木更津駐屯地内滑走路近く

	測定(1回目)	測定(2回目)	測定(3回目)
MV-22 ※1	75dB	75dB	75dB
CH-47JA※2	75dB	77dB	77dB

(参考)CH-47JAが、オスプレイが利用することとなる場周経路を飛行した際の騒音の最大値: 測定(1回目) 73dB、測定(2回目) 73dB、測定(3回目) 72dB

【測定地点②】 木更津下水処理場(木更津駐屯地から直線約2.4kmの地点)

	測定(1回目)	測定(2回目)	測定(3回目)
MV-22 ※1	63dB	65dB	69dB
CH-47JA※2	78dB	78dB	71dB

(参考)CH-47JAが、オスプレイが利用することとなる場周経路を飛行した際の騒音の最大値: 測定(1回目) 71dB、測定(2回目) 70dB、測定(3回目) 67dB

【測定地点③】 航空自衛隊木更津分屯基地(木更津駐屯地から直線約2kmの地点)

	測定(1回目)	測定(2回目)	測定(3回目)
MV-22 ※1	62dB	62dB	66dB
CH-47JA※2	64dB	63dB	61dB

(参考)CH-47JAが、オスプレイが利用することとなる場周経路を飛行した際の騒音の最大値: 測定(1回目) 65dB、測定(2回目) 64dB、測定(3回目) 63dB

※1 整備開始後、オスプレイが利用することとなる場周経路を飛行した際の騒音の最大値

※2 現在、CH-47JAが利用している場周経路を飛行した際の騒音の最大値

※3 測定値は、気象条件や地形、地上の状況等、騒音測定時の条件の違いによって変化

駐屯地内でホバリングを行った際の騒音比較の結果(騒音の最大値)

ホバリングを実施した際の騒音比較



- オスプレイの整備でのホバリングチェックにおいて見込まれる高さの
 - ・下限(地上高30ft(約9m))
 - ・上限(地上高150ft(約45m))
 にて、ホバリングを実施

【測定地点①】 木更津駐屯地内滑走路近く

		測定 (1回目)	測定 (2回目)	測定 (3回目)
地上高 30ft (約9m)	MV-22	88dB	85dB	89dB
	CH-47JA	77dB	72dB	73dB
地上高 150ft (約45m)	MV-22	86dB	91dB	93dB
	CH-47JA	81dB	84dB	84dB

【測定地点②】 木更津下水処理場(木更津駐屯地から直線約2.4kmの地点)

- ✓ 測定地点②の周辺の騒音レベルは、45～55dB程度
- ✓ MV-22及びCH-47JAのホバリング時の騒音は、上記の範囲に包含される

【測定地点③】 航空自衛隊木更津分屯基地(木更津駐屯地から直線約2kmの地点)

- ✓ 測定地点③の周辺の騒音レベルは、40～50dB程度
- ✓ MV-22及びCH-47JAのホバリング時の騒音は、上記の範囲に包含される

※ 測定値は、気象条件や地形、地上の状況等、騒音測定時の条件の違いによって変化

木更津駐屯地における米海兵隊MV-22オスプレイと陸自CH-47JAの騒音比較について

騒音測定の方法

1. 場周経路飛行時

- ✓ 場周経路飛行時の騒音による周辺の影響を確認するため、固定翼の場周経路をオスプレイとCH-47JAが飛行
- ✓ その際、場周経路に比較的近い3カ所において騒音を測定



オスプレイが利用することとなる場周経路
高度900ft (約270m)



CH-47JAが利用している場周経路
高度800ft (約240m)



(国土地理院HPを加工)

- 騒音の測定地点
- 測定地点①：木更津駐屯地
- 測定地点②：木更津下水処理場
(木更津駐屯地から直線約2.4kmの地点)
- 測定地点③：航空自衛隊木更津分屯基地
(木更津駐屯地から直線約2kmの地点)

2. ホバリング時

- ✓ 滑走路上をホバリングする際の騒音を確認するため、オスプレイとCH-47JAが同じ条件でホバリングを実施
- ✓ その際、左記の測定ポイントにおいて騒音の測定を実施

① 地上高150ft (約45m)

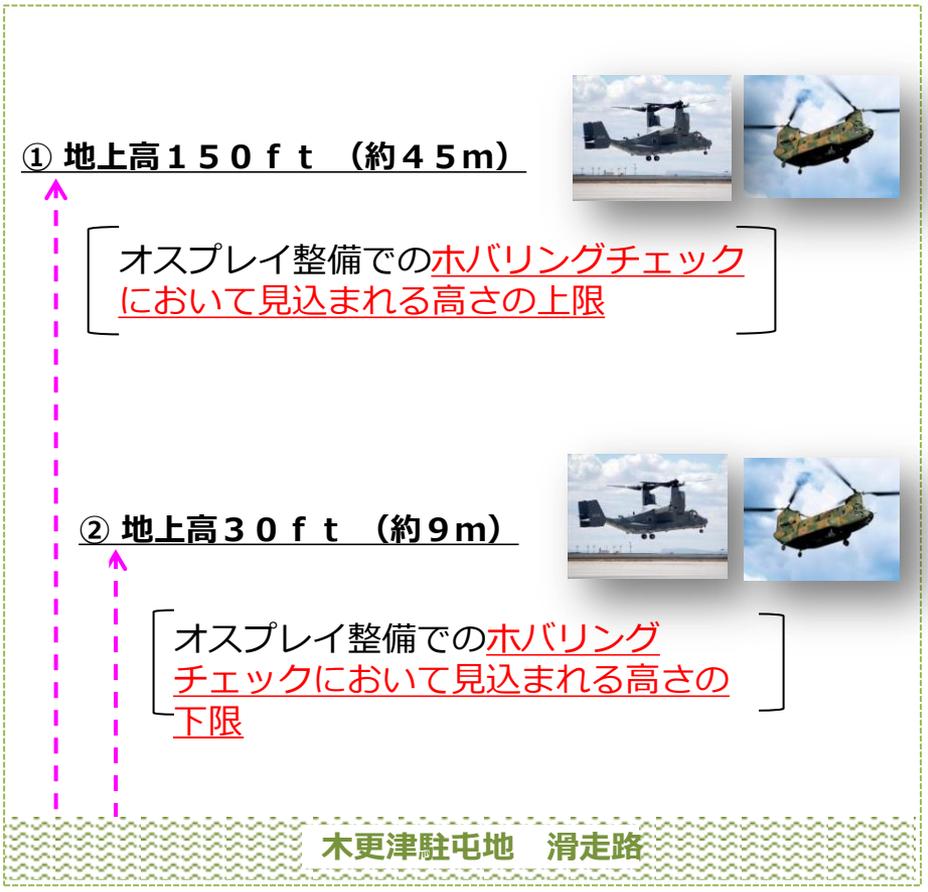


オスプレイ整備でのホバリングチェック
において見込まれる高さの上限

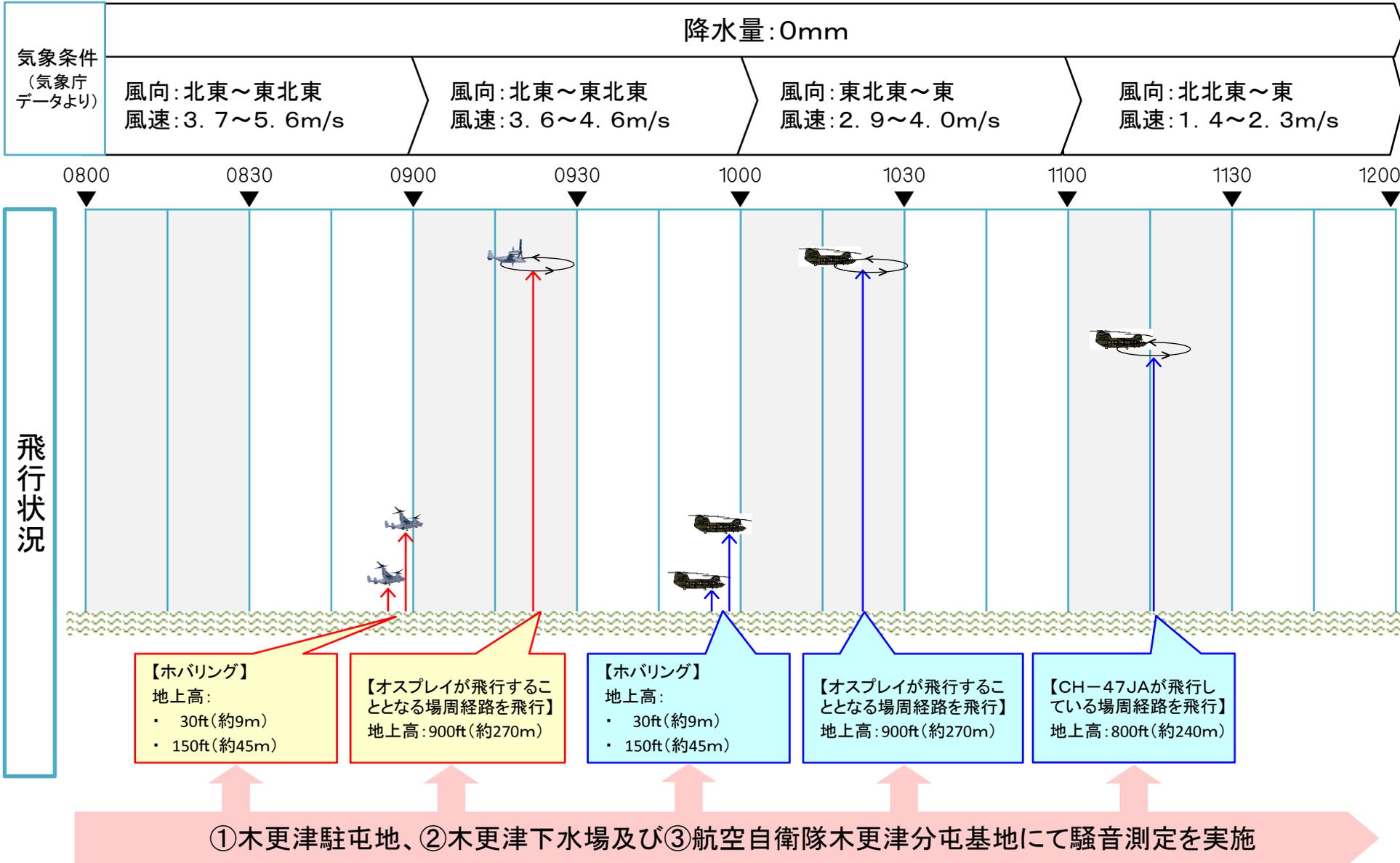
② 地上高30ft (約9m)



オスプレイ整備でのホバリング
チェックにおいて見込まれる高さの
下限



気象条件・実際の飛行状況



騒音の目安

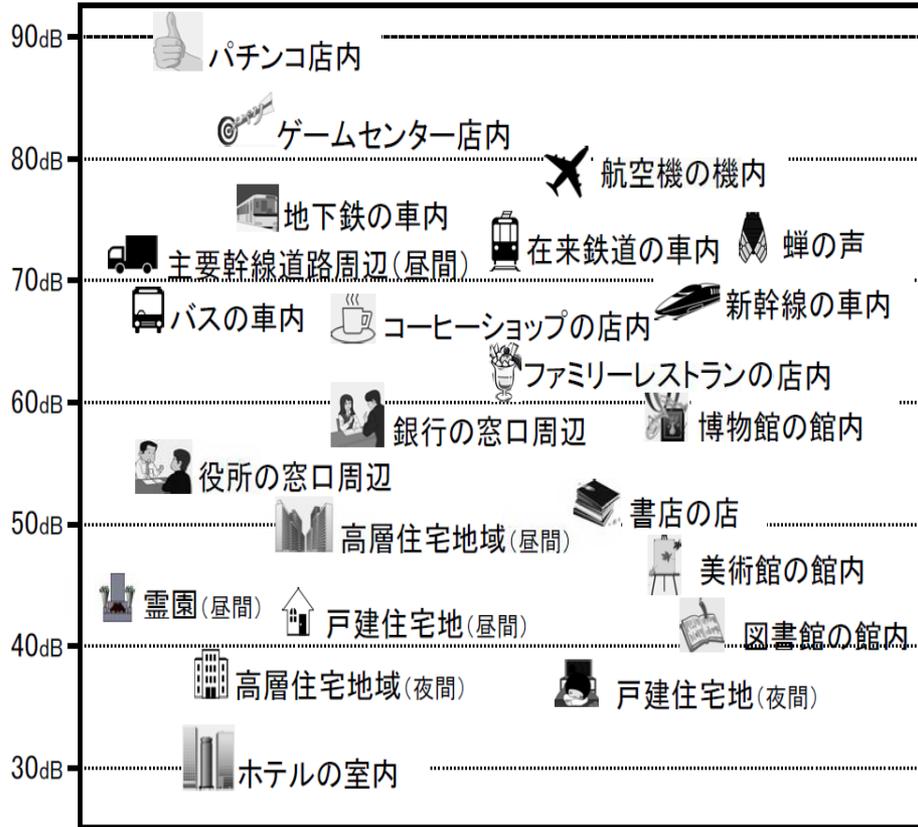


図1 騒音の目安(都心・近郊用)

(出典「全国環境研協議会 騒音小委員会」)

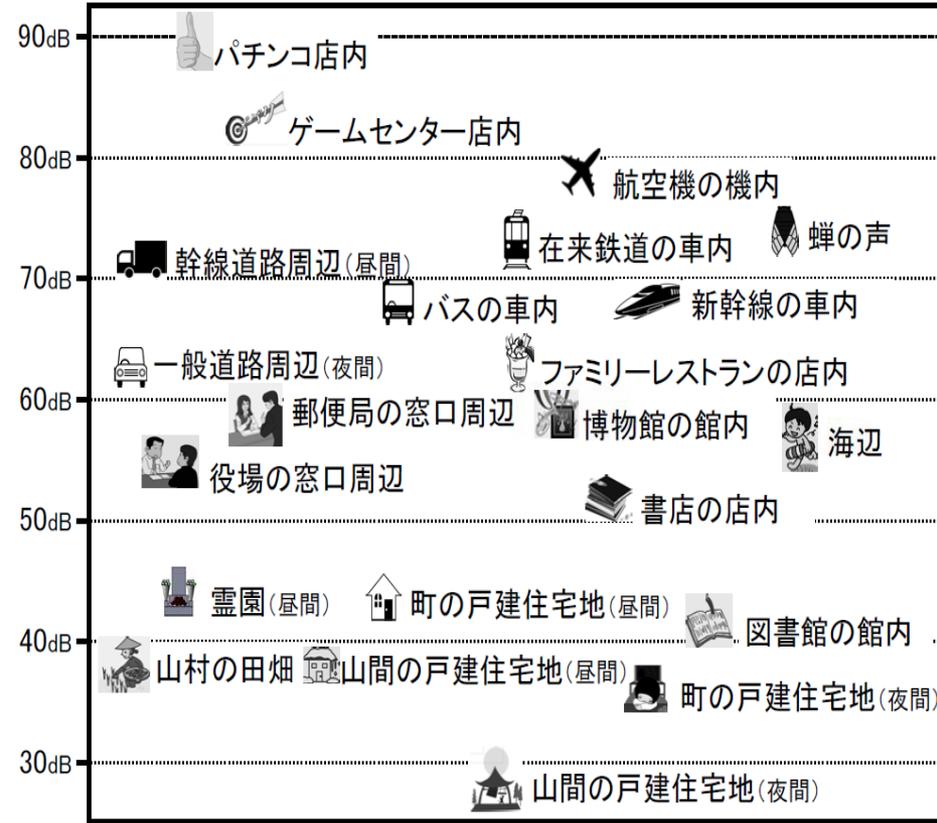


図2 騒音の目安(地方都市・山村部用)

(出典「全国環境研協議会 騒音小委員会」)